

患者情報を集約した病床管理・運用システムの開発

城下良介¹⁾ 今井章智²⁾ 中上富久美¹⁾

1) 高山赤十字病院 診療情報管理課

2) 高山赤十字病院 企画調整課

抄 録：

【はじめに】医療の質と経営の質を担保した病床管理は、急性期から慢性期に対応する地域医療を目指す当院の重要な課題である。病棟の機能を活かした病床管理や、地域包括ケア病棟開設に伴う病床運用の基盤となる院内指標として、D P C、重症度医療看護必要度等の情報を集約するシステムの開発を試みたので報告する。

【方法】D P C情報、重症度医療看護必要度、リハビリ単位数を抽出し病棟別一覧として、電子カルテから閲覧できるようにした。

【結果】急性期から慢性期への転棟指標として、病床運用の会議へ提供した。重症度医療看護必要度とD P C情報を可視化することにより、転棟、退院調整する患者を見つけることが容易となった。また、現場スタッフが経営に関する情報に接しやすくなった。

【結語】適正な病床運営を行う中で、このシステム開発と情報発信は、適正な医療を効果的に連携するための「チーム医療」の一員として、事務の大きな関わりとなった。